

草加川柳地区

こんなまちになったりいいな

地区別懇談会 の記録

第2回

プログラム

1. 開催にあたって
2. 意見交換
ワークショップ①：重要な『地区のミライ』を考えよう
ワークショップ②：『地区のミライ』を実現するための
取り組みを考えよう
3. 検討結果の発表
4. 閉会・次回のご案内

日時：令和4年5月29日（日）
18:30～21:00

場所：川柳文化センター体育室

参加者数：23名

当日の様子



ワークショップ①：重要な『地区のミライ』を考えよう の記録

ワークショップ①では、第1回地区別懇談会の検討結果を踏まえ、各班（A～E班）で、特に重要だと思う『地区のミライ』を選び、選んだ理由について意見を出し合いました。

選んだ理由等

地区のミライ

地区のミライを選んだ班

<移動・交通・歩行空間>

■買い物・通勤・通学・の交通利便性が良いまち

- ・病院やスーパー、レイクタウンへの移動のためのバス路線の延伸・増便が必要。
- ・モビリティの導入はこれからの人口減を考えたときに必要な技術である。
- ・高齢で一人暮らしの方は買い物に困る。

■安全な道路・便利な公共交通

- ・自転車専用路が整備され、車、歩行者、自転車にとって安全な道路になると良い。
- ・安心して車椅子や乳母車が歩行できるようになると良い。

■最先端技術を利用した交通環境の整備

- ・脱炭素を進めるために、シェアリングやEVを推進したい。

■車に頼らなくても暮らせるまち・車も利用しやすいまち

- ・移動スーパーなど、多少体が不自由になっても困らないように。
- ・バスルートやバスの便数を増やしてほしい。
- ・介助者と2人並んで安全に歩ける歩行環境になると良い。
- ・身体機能が低下しても皆が安全で安楽に移動できるシステムが必要。

<歴史・文化>

■柿木の歴史とコミュニティを継承するまち

- ・「歴史や桜並木」と「健康」はつながる。
- ・コミュニティを守るためにも、お祭りを盛り上げ継続していきたい。／柿木地区特有の歴史を次世代に継承しつつ、地域のつながりとしてお祭りとの関係は不可欠。人を集める手段となる。
- ・お祭りの氏子を継承する担い手を確保する必要がある。
- ・輪番制の負担が大きく、苦痛になっているので、楽しめるお祭りにしたい。

<みどり・景観>

■緑地の資源を保っていく

- ・歴史ある葛西用水を大切にしたい。／用水を活用して地域の交流・活性化を促せる可能性があり、年齢問わず取り組みそう。
- ・そうか公園は市全体でみても重要であり、地域のふれあいも発展する。

■自然・資源を活かすまち

- ・現存する場所を生かす・再発見する・再認識することが重要。
- ・緑地の環境を整えることで、水辺の生物の保護や交流の場の整備にもなる。
- ・自然と触れ合える環境により子どもの感性を育むことができる。
- ・今ある資源や、らしさを活かして、新しい変化も取り入れる。むやみな開発はしない。
- ・柿木は自然が多い。田畑・用水に関わる取組が重要。

<生活環境>

■今ある資源を活用しながら、さらに住みやすいまちへ

- ・空き家の解消により生活環境が改善され、交流の場としても活かせる。
- ・公共施設をはじめ利用制限を緩和して利用価値を高める。／今ある施設をもっと活用しやすく。
- ・新たな資源を生み出すのは難しい。みんなのアイデアで資源の活用を。
- ・むやみに開発せず、どういう風に残すかが大事。

■歩いて生活できるまち

- ・徒歩圏内で生活を整えられると、活ユーザー間のコミュニケーションが増える。

<若者>

■若い人が楽しめるまち

- ・多世代交流が盛んなまちは賑やかなまちになる。
- ・若い人が自分たちで考えられるまちにしたい。
- ・若者が、自分たちが楽しめる計画を企画し、実行できるようになると良い。
- ・「子ども達が育ちやすい、遊びやすい。若い人が自分たちで行動できる」まちを目指したい。

※上記「選んだ理由等」の内容は、ワークショップで出た意見を一部抜粋・要約し、掲載しています。

- 2 -

<高年者>

■支え合いつながるまち

D E

- ・地域の高齢化率が高い。
- ・お祭り継承のためにも、元気な高年者が必要。

<交流・にぎわいづくり・活性化>

■交流したり集える場所がある拠点があるまち

A C

- ・お母さんたちの交流の場が無い。支援センターはハードルが高く、子育ての悩みを気軽に相談して的確なアドバイスがもらえる場があるといい。
- ・ママ友とお茶ができるカフェが近くに無い。
- ・気軽に集まれる場所があると賑わいが生まれる。

■交流の機会があるまち

E

- ・柿木地区のにぎわいや活性化を図るため、様々な属性の方達が集える交流の場所が必要。
- ・地域にある資源を活用するとよい。例えば古民家を活用した、うめだ商店。
- ・こういう場所を地域の活性化につなげたい。

■地域で連携して子ども食堂

C

- ・交流の場づくりとして。
- ・活動をもっと周知して協力者の輪を広げる。

■人口減をくいとめるコミュニティづくり

D E

- ・様々な属性の人々が集い、交流しあえる場所があると良い。
- ・超高齢化社会の中での独居の課題解消。
- ・都心のベッドタウンとして、様々な人が暮らしている点を活かす。
- ・市外の子育て世代や、市内の若い世代が社会人になっても住み続けたいまちであることが地域のにぎわいにとって大事である。
- ・柿木は活用できる田んぼもあるし、稲作体験をやりたい人もいる。
- ・現在暮らしている若い世代が離れないようにすることが重要。／通勤の交通利便性を上げることで、若い人が離れないようにできないか。
- ・コミュニティを継承する人材が足りない。
- ・調整区域全体としては、新たな建築が規制され、人が増えないという根本的な問題がある。

<子ども・子育て>

■子どもが育ちやすいまち

D

- ・地域で子どもを育てることで地域コミュニティの活性化や、子どもが将来まちを好きになることにも繋がる。

■子どもが遊びやすい環境・利用しやすい公園

A B C D

- ・夏場は特に、子どもの遊ぶ場所がない。／公園に駐車場や日よけがあると良い。
- ・公園を様々な活用できると、子育て世代の暮らしが充実する。ミライへつながりそう。
- ・ボール遊びができる空間、外に出たくなる場所があると良い。

■子ども連れで利用しやすいお店や施設

A C

- ・親子で集える施設を増やす。／空き家・空き店舗をカフェやレストランとして活用し、親子連れで交流できる場や機会が増えると良い。
- ・若者や高年者など、地域の人々の力を活かせると良い。

■子どもが自然と触れ合える環境

B C D

- ・サバイバル能力が育つ公園／子ども達がザリガニや魚釣りができるようになると良い。
- ・地区の特徴である自然と、触れ合える環境があると良い。

■町会活動の魅力や必要性の理解

A B

- ・特に防災対策の必要性を理解してもらいたい。
- ・町会活動が活発な地域であるため、地域交流のメリットを伝えられると良い。
- ・個人で蓄えた知識などを通じて、交流の輪を広げられないか。
- ・何を行っているのか知らないから参加していない人もいるのではないか。
- ・各町会・団体・学校等との交流の場を常時化し、個々が住みよい町へとつなげていけそう。

■それぞれが知り合いなまち

A D

- ・地域のつながり、町会活動の必要性への理解につながる。
- ・震災が起こる可能性がある中で、行政による支援に時間がかかる場合もあるため、地域で顔が見える関係づくりが大切。
- ・地域での、住民間や企業も含めた交流の場が必要。
- ・つながりが強いこの地域の伝統をずっとつないでいきたい。

ワークショップ②：『地区のミライ』を実現するための取り組みを考えよう の記録

ワークショップ②では、①を踏まえ、『地区のミライ』を実現するための取り組みについて、意見を出し合いました。

このページでは取り組みのタイトルのみ掲載しております。各取り組みの詳しい内容は5ページ目以降をご確認ください。

テーマ1．つながり・支え合い

1-1 共通の目的を見つけて交流できる関係づくり

1-2 多世代交流による「お互い様」の地域づくり

1-3 高年者による子ども・子育て世代向けワークショップ

1-4 高年者と子どもによるイベントの企画・実施

1-5 地域で子育てサポートができる体制づくり

1-6 多分野連携による子育て世代・高年者のサポート

テーマ2．居場所

2-1 空き家等を活用したコミュニティカフェづくり

2-2 柿木の古民家を活用した居場所づくり

2-3 子ども食堂の周知・PR

2-4 草加アオハル食堂＜拡大版＞

2-5 公共施設等を活用した地域食堂や生活支援サービスの実施

2-6 川柳文化センターを活用した子どもやママの交流の場づくり

テーマ3．農業・歴史・文化

3-1 作育とお祭りを連動させたイベント

3-2 柿木・青柳の農地を活用した子ども向けの体験

3-3 柿木の寺社仏閣等の歴史資源のPR

3-4 地域のお宝さがし&情報発信

テーマ4．自然・みどり

4-1 地域内の自然と触れ合う場や機会づくり

4-2 四季を感じられるそうか公園づくり

4-3 親子で自然と触れ合える場づくり

4-4 散歩ができる空間づくり・マップづくり

4-5 自然と触れ合えるアウトドア体験会

テーマ5．にぎわい

5-1 そうか公園を会場にしたイベント

5-2 子どもから大人まで楽しめる釣り大会

5-3 四季折々のイベントの開催

テーマ6．地域連携

6-1 住民間や企業との顔が見える関係づくり

6-2 まちづくり団体間の情報交換やコラボ

6-3 地域で連携して自転車のマナー教室の開催

テーマ7．交通

■ 地区内を循環するバスルートの整備

■ スクールバスの運行

■ 自転車通行帯の整備

テーマ8．移動・買い物

■ 施設の送迎車を活用した移動の支援

■ 移動スーパー・移動販売の実施

■ 乗り合いタクシーの導入

※取り組み名の右側に、取り組みと関係が深い分野（下記7分野）のマークを付けています

子ども・子育て

子

福祉

福

農業

農

自然

自

文化・歴史

文

活性化・交流

活

移動・交通

移

「テーマ1．つながり・支え合い」「テーマ2．居場所」に関する取り組み内容

取り組み番号	取り組み名（仮）		取り組みの目的	取り組み内容	場所	関係者・担い手
1-1	共通の目的を見つけて交流できる関係づくり	活	◎最近の人はスマホばかりで人間関係が希薄になっているため、直接人と人が繋がりがあえる機会を生みだして、人間関係を見つめ直したい。	・いつでも、どこでも、誰とでも、地域の人が共通の目的を見つけて交流できる場づくり。	公園、葛西用水、学校などで	地域住民（その時々によって、先生と生徒、兄弟、祖父と孫など
1-2	多世代交流による「お互い様」の地域づくり	福文	◎地域 みんなが顔見知り、普段から助け合える「お互い様」の地域づくりを進めたい ◎高齢者が元気でいられるように	・既存の活動やサロンの中で、地域の歴史や自慢できるポイントについて話し合う。そこから顔見知り関係ができて、「お互い様」の地域づくりにつなげる。	既存の活動の活動場所 ※既存の活動 楽笑さんぽ、サロン等	高齢者、町会、サロン、協議体、民生委員、地域包括、中高生、ボランティア部等
1-3	高齢者による子ども・子育て世代向けワークショップ	活子福	◎子どもに地域や外遊びの楽しさを知ってもらい、地域の良いところを次世代に引き継ぎたい ◎高齢者の方の知識や知恵を継承したい	・高齢者の方々が、昔遊びや昔あった出来事、子どもの頃の楽しかった思い出などを子どもや親子に共有し、体験してもらうワークショップ。	地域の公園、学校、文化センター、公民館、空き家等	町会、地域の高齢者、行政（支援）
1-4	高齢者と子どもによるイベントの企画・実施	活子福	◎古くからの良いものを次世代に受け継ぎ、子ども達にまちへの愛着を持ってもらいたい ◎世代を超えたコミュニケーションを促したい	・高齢者と子どもが一緒になって、イベントの企画から運営までを行う。	地域の拠点施設 ※そうか公園、川柳文化センター、柿木公民館	高齢者、子ども
1-5	地域で子育てサポートができる体制づくり	子	◎町会活動のメリットを次世代に理解してほしい ◎子育てしやすい環境をつくりたい ◎子どもの生きる力を強めていきたい ◎ルールに敏感になっている子どもたちが広い視野を持って、もっと自由に生きてほしい	・共働きで多忙な子育て世代を、町会でサポートする。 ・子育て世代は仕事も忙しく、子どもに接する時間が少ない。家庭や塾では教わらない、生きる力、サバイバル能力を、一世代上の方が先生となって教える。 ・じいちゃんばあちゃんの手料理を食べさせてもらう。	公民館、公園	町会
1-6	多分野連携による子育て世代・高齢者のサポート	子福	◎子育て世代や高齢者が安心して暮らせるように	・地域内の様々なグループや活動が連携して、子育て世代や高齢者をサポートする。	地域内	市民みんなで
2-1	空き家等を活用したコミュニティカフェづくり	活	◎世代を問わず知り合える場と、コミュニティの居場所をつくりたい	・地域内の空き家等を活用したコミュニティカフェを開設する。	空き家、遊休不動産、そうか公園	行政、民間、市民、子ども食堂やリバーシェン関係者
2-2	柿木の古民家を活用した居場所づくり	福活	◎顔が分かるコミュニティづくりを進めたい	・3世代が集まっておしゃべりできる場所をつくる。 ・買い物など、高齢者がちょっとした困り事を相談できる場所としても機能する。	柿木町内の古民家	高齢者、子ども世代、孫世代
2-3	子ども食堂の周知・PR	子	◎子ども食堂の活動を広めて協力者を増やしたい	・子ども食堂の活動をもっと周知し、飲食店や民間企業から食材を提供してもらうなど、協力者を増やす。	子ども食堂	子ども食堂関係者、町会、地域の商店・飲食店
2-4	草加アオハル食堂＜拡大版＞	子	◎育児の負担軽減と息抜きできる場をつくりたい	・交流の拠点が分かりやすく、入りやすい雰囲気、1人でも気軽に利用できる場所をつくる。育児相談ができるファシリテーターも配置する。	空き家、コミュニティスペース	市民（子ども食堂運営）、行政（ファシリテーターのコーディネート役）
2-5	公共施設等を活用した地域食堂や生活支援サービスの実施	子福	◎子どもから高齢者まで全世代が交流し、支え合い助け合える、住みよいまちを実現させたい	・地域の公共施設等を活用して、地域内の活動団体が地域食堂や生活支援サービス等を実施する。	川柳文化センター、小中学校、そうか公園、であいの森、温水プール	地域の活動団体
2-6	川柳文化センターを活用した子どもやママの交流の場づくり	子	◎川柳地区を「ふるさと」と呼べるまちにしたい ◎子ども達の未来のために	・川柳文化センターを親子で利用しやすい施設に改善（リノベーションまではしない）し、交流できる場にする。 ・敷居が高くて子育て支援センターでは相談できないママが、気軽に専門職に相談できる機能も設ける。	川柳文化センター	行政、地域の人、プレイリーダー（公民館・社会教育事業でプレイリーダーを育成する）

「テーマ3．農業・歴史・文化」「テーマ4．自然・みどり」に関する取り組み内容						
取り組み番号	取り組み名（仮）		取り組みの目的	取り組み内容	場所	関係者・担い手
3－1	作育とお祭りを連動させたイベント	農	◎子どもが増えて良いコミュニティができるように、子どもたちにとって楽しいまちをつくりたい	・田植えから稲刈りまでの稲作と、苗植えから収穫までの野菜作りといった「作育」と、豊稔祈願や収穫祭、感謝祭といった「お祭り」を連動させたイベントを実施する。	柿木地区内の田んぼ・畑	地域の大人、子ども
3－2	柿木・青柳の農地を活用した子ども向けの体験	農子自	◎子どもが自然と触れ合える体験機会を増やしたい ◎地元を知ってもらうことで、古くからの良いものや、歴史・文化を受け継ぎたい	・柿木・青柳の農地や空き農地を保全しつつ活用し、地域住民が地元の子どもたち向けに、地元を知る、古き良きことを伝承できる体験やイベントを実施する。 ・子どもたちが収穫体験できる場をつくる。	柿木、青柳地域の農地	地域住民（農家、町会、自治会）、農地の所有者
3－3	柿木の寺社仏閣等の歴史資源のPR	文活	◎人が集まる地域にしたい（人が集まれば空き家活用も進み、バス交通も充実する） ◎観光ツアーが組まれる程の地域にしたい	・神社仏閣など、地域の歴史や語り継がれてきたものを地元住民から聞き出し、それをネットやSNS等で発信する。	神社仏閣	長年住んでいる人（意見の聞き出し）、若い人（情報発信）
3－4	地域のお宝さがし&情報発信	活自文	◎地域の自然や資源などを再発見し、情報発信していくことでにぎわいを生み出したい	・地域の資源を再発見するための「お宝さがし」をまちあるきにより実施し、収集した情報を発信する。	地域全体、川柳文化センター	地域を良く知っている人、子ども達
4－1	地域内の自然と触れ合う場や環境づくり	活自	◎多種多様な世代や団体等との連携により、子どもから大人、高年者までが幅広く楽しめる環境にしていきたい	・葛西用水で釣りや水遊びができる場づくりや、簡易的な催しを開催する。 ・既存公園やそうか公園の活用方法の再検討、再整備。	そうか公園、葛西用水、その他の公園、会館　等	各町会や各団体と行政が連携して
4－2	四季を感じられるそうか公園づくり	自	◎昔のように、散歩しながら四季を感じられるそうか公園にしたい ◎来街者を増やしてお花見の名所にしたい	・みんなで、そうか公園に季節の植物を植える。（ゾーンごとに四季の花や樹木を植える）	そうか公園	住民と行政が協力して
4－3	親子で自然と触れ合える場づくり	活自子	◎子連れ同士のつながりをつくりたい ◎子どもに地域の生態系を知ってほしい ◎サバイバル能力を育みたい ◎もっとまちを好きになってほしい	・親子で自然と触れ合える機会、場づくりとして、地域の中で虫取り大会を開催する。	そうか公園、葛西用水	親子、行政
4－4	散歩ができる空間づくり・マップづくり	福自子	◎子どもの成長を助け、高年者の健康増進につなげたい ◎地域の方が外に出てお散歩や交流が楽しめるきっかけをつくりたい	・地区の空間を再整備して、散歩などが楽しめる屋外空間を生み出す。 ・地域にあるお気に入りの散歩スポットをみんなで共有し、お散歩マップをつくる。	葛西用水を中心とした地域内の場所	地域住民、行政
4－5	自然と触れ合えるアウトドア体験会	活自子	◎自然と触れ合い、自然を残したい ◎子どもを通じて地域の交流を創出したい	・地域の公園や耕作地などをフィールドに、アウトドア体験会を実施する。	草加公園、有休耕作地	住民、子ども

「テーマ５．にぎわい」「テーマ６．地域連携」に関する取り組み内容					
取り組み番号	取り組み名（仮）	取り組みの目的	取り組み内容	場所	関係者・担い手
５－１	そうか公園を会場にしたイベントの開催 活文	◎子どもから高年者まで、多世代交流できる機会をつくりたい。お祭りを復活させたい ◎来街者を増やして、草加市を知ってもらいたい	・そうか公園で、お祭りや大規模なイベント、イルミネーションなどを開催し、公園利用を活性化させる。 ・まずはお祭りの神輿を展示するなど、小さな催しから始めて徐々に大きくしていく。	そうか公園	行政、町会、地域住民、その他団体、飲食店
５－２	子どもから大人まで楽しめる釣り大会 活子自	◎子どもでにぎわう地域にしたい ◎池の環境を保全したい	・公園の池などを使って、子どもから大人まで楽しめるザリガニ釣りの大会を実施する。	そうか公園	子ども、高年者、地域住民
５－３	四季折々のイベントの開催 活	◎地域の場所を活用して、住民同士の交流やつながりをつくりたい	・秋の運動会を始め、四季によって地域で楽しめるイベントを企画・実施する。	そうか公園	地域住民
６－１	住民間や企業との顔が見える関係づくり 活	◎若者が楽しめるまちにしたい ◎住民間や企業との顔が見える関係づくりをしたい	・若者が地域住民や企業と交流できる場づくりやイベントを実施する。（テーマ：若者×高年者、若者×民間企業）	そうか公園、ベルクス青柳の屋上駐車場 等	民間事業者と市民と行政が連携して
６－２	まちづくり団体間で情報交換やコラボができる場づくり 活	◎まちづくり団体の活動を継続していけるように、ひと、もの、かねの、共助の仕組みをつくりたい	・まちづくり団体同士がコラボして実現したい活動を助け合ったり、情報交換できる場をつくる。	公共施設	まちづくり団体、行政
６－３	地域で連携して自転車のマナー教室の開催 移	◎地域内での事故を防止できるように	・行政と町会、地域内の団体等が協力して、自転車のマナー教室等を実施し、注意喚起を促進する。	公共施設	行政、町会、その他団体

「テーマ７．交通」「テーマ８．移動・買い物」に関する取り組み内容					
	取り組み名（仮）	取り組みの目的	取り組み内容	場所	関係者・担い手
行政や事業者の取り組み	地区内を循環するバスルートの整備 移	◎住民が地区内を円滑に移動できるように	・既存の往復ルート以外に、地区内を循環するバスルートを整備する。（例 住民アンケートで必要箇所を把握し→バスルートを設定するなど）	川柳地区、柿木地区	行政、民間事業者
	スクールバスの運行 活子移	◎高年者や子どもの安全のため。産業団地や東埼玉有料道路開通に伴う事故防止のため	・スクールバスの運行	小中学校	行政
	自転車通行帯の整備 移	◎市民が安全に歩行できるように	・自転車専用通行帯のある道路を整備する。	草加市の各市道	行政、警察、民間事業者
行政や事業者の取り組み	施設の送迎車を活用した移動の支援 福移	◎身体機能が低下しても楽しく生活できるように	・地区内の施設が持っている送迎車を活用して、高年者の買い物や病院への受診を支援する。	川柳地区、草加市内全域	地区内にある施設、行政
	移動スーパー・移動販売の実施 福移	◎高年者が安心して生活を送れるように	・日用品や食料品を移動販売で購入できるように、高年者の買い物支援をする。	柿木地区	地域の民間事業者、行政
	乗り合いタクシーの導入 福移	◎将来にわたり、高年者が円滑に移動できる環境づくりのために	・数人で乗り合いできるタクシーを導入する。（福祉タクシーのようなイメージ）	地区内（ルート：駅や病院等を巡れるように設定）	民間事業者、行政